

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表:平成31年3月15日

事業所名:児童発達支援事業所 ハピネス

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		指導訓練室のスペースは大きく確保している。	指定基準を遵守し、子ども達の安全に配慮していく。
	2 職員の配置数は適切である		○	現時点では適切であると思うが、今後より良い支援を行うためには増やす必要がある。	今後、利用者の増加が考えられるため職員を増やす。また、資格所有者を採用することによって質の高い支援を目指す。
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○		それぞれの個性に合わせた安らぎを与えられるように構造化している。	引き続き継続維持していくと共に子ども達が楽しく過ごせる遊具等の導入を取り入れていく。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○		それぞれの個性に合わせた安らぎを与えられるように構造化している。	日々の清掃・片付け等を実施し、来所時に子ども達がスムーズに環境に入れるようにしていく。
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		日々のスタッフミーティングでPDCAサイクルを取り入れ、実践している。	日々のスタッフ間の連携と週1回の事業所ミーティング、月2回実施している法人会議等を継続して実施していく
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		保護者の貴重な意見を頂き、保護者様の安心につなげていきたい。	指摘された事項はしっかりと受け止め、スタッフミーティング・法人会議等で改善をしていく。また、関係機関等との連携を行い、開かれた事業所作りに励んでいく
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○			
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	○			
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		年3回外部講師による研修会実施。	外部開催の研修等に管理者だけでなく、スタッフが参加できるように職員間で協力しながら対応していく。
適切な支援の提供	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○		同法人にいる書類管理スタッフが定期的に研修やスタッフの意向等を踏まえて書類を見直し、児童・保護者のニーズを反映した書類になるよう努めています。	
	11 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○			
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○			
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○			
	14 活動プログラムの立案をチームで行っている	○		事業所だけでなく、法人のバックアップを受けながら他者が行っていないようなプログラムを組むように心がけている。	
	15 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○			
	16 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	○			送迎時間が重なった際に事業所内に残るスタッフだけでは個別活動の対応が難しい場合がある。児童の状況に応じてスタッフの増員を今後検討していく。
	17 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○			
	18 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○			
	19 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○			
20 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○		モニタリング実行月を表にまとめ事務室に掲示し、つき始めて職員共有している		

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	21 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		管理者・サビ管だけでなく、同一法人の相談員に必要に応じて協力要請し一緒に参加して助言いただく等している。	
	22 母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○			
	23 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている		○		現在、医療的ケアが必要な児童の受け入れは行なっておりません。
	24 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている		○		
	25 移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○			関係が良好・薄いといった状況がある。「何もない」からではなく、定期的な交流を持って、情報共有できるようにしていく。
	26 移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○			また、引き継ぎ書類等を作成し、情報提供できるように心がけていく。
	27 他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○			
	28 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある		○		活動は幅広く行っているが、自社での取り組みが中心になっている為、今後はそういった観点も意識して取り組んでいく。
	29 (自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している		○		協議会の参加はないが、町が実施する研修等へは参加し、また日々の取り組みを会議等を通してご理解いただいている。
	30 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		連絡帳を活用し、日々の活動状況や取り組みを報告している。	
31 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	○		年1回の保護者向け外部講師研修を実施している。	保護者の意見を踏まえつつ、必要に応じて定期的なペアトレ開催等を検討していく。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○			
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○			定期的な読み込みをスタッフ全体で行い、意識して作成できるような心がけていく。
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		行事等への参加だけでなく、今年度から年1回、外部講師を招いての保護者向け勉強会を開催している。	法人相談員を活用し、「相談できます」を告知し、保護者が相談しやすい環境を整備していく。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○			
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○		事業所スタッフだけでなく、系列事業所の相談員に協力を要請し、幅広い相談に対応できるように対応している。	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		ブログ・LINEを週に1～2回は更新し、常に状況をお伝えできるようにしている。	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	○			
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○			空間整備の強化を常に心がけ、安心して来所いただけるように努めていく。
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○		地域住民を招待できるような業務を実施していない。行事計画を立てる中で該当する行事を実施する際は招待できるように普段から地域交流を実施していく。
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○		各種マニュアルを研修時に確認すると共に年に2回消防署の協力のもと避難訓練を実施している。	保護者の皆様のと共有が完璧ではない為、避難訓練実施時は避難方法・経路図・連絡方法等を書面・ブログ等を通してお知らせしていく。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		定期的に避難場所等を子ども達と確認し、日々の遊びの中でも確認するようにしている。	
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○		事前の個別支援会議で確認し、対応方法を個別のファイルを作成し、職員周知をしている。	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている		○	医師の指示でなく、事前に保護者に確認を行いながら、おやつを提供をしている。	
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		事例が起きた際は職員間で再度、注意喚起と防止法について話し合っている。	環境等を整備し、事前に防具・確認する事を心がけていく。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		外部講師等を活用しながら、年1回実施している。	今後も定期的に開催し、適切な対応・手法を学んでいく。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	○		契約書・重要事項説明書に記載し、また本人の特性を事前に個別支援会議で確認し、両親の対応等を確認している。	引き続き、利用開始時に個別支援会議を実施し、本児の特性を理解する事を心がけていく。

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。